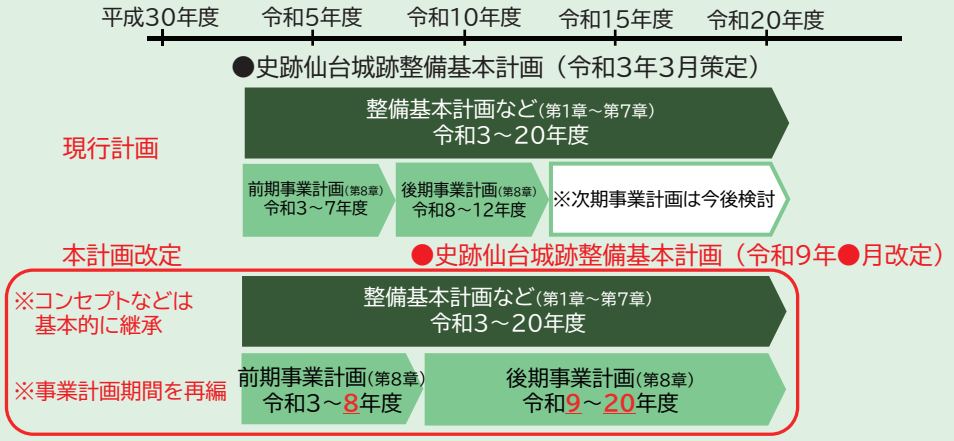
史跡仙台城跡整備基本計画（改定中間案）
概　要　版

計画の改定について

仙台市では、令和3年3月に策定した「史跡仙台城跡整備基本計画」に基づき、史跡仙台城跡の保存・活用及び整備を進めてきました。しかし、福島県沖地震による災害復旧への対応等により、一部事業に遅れが生じています。一方で、大手門復元関連基礎調査の成果を踏まえ、令和8年3月に「仙台城大手門復元基本構想」を策定し、令和 18 年までの大手門復元を目指すこととしました。

本計画は、現行計画のコンセプトや基本理念を継承しつつ、大手門復元整備事業を明確に位置付けるとともに、事業計画期間を再編し、令和20年度までに実施する整備内容とスケジュールを示すため改定するものです。



史跡仙台城跡とは

仙台城跡は、青葉山とその麓に築かれた日本の近世を代表する城跡です。伊達政宗によって慶長6（1601）年より築城が開始され、以後幕末まで仙台藩主の居城として藩政の中心にありました。

明治維新後は廃城となったものの、取り壊しや火災の被害を受けずに残っていた大手門と大手門脇櫓が昭和6（1931）年に国宝に指定されましたが、昭和20（1945）年の空襲により焼失しました。戦後は米軍の駐留を経て、大学や博物館、公園などに利用され市民に親しまれる場所となりました。

その後、発掘調査等を継続的に実施し、その成果により城郭全体の価値が評価され、平成15（2003）年8月に国の史跡に指定されました。

本質的価値

次世代に継承していくべき仙台城跡の歴史上・学術上の価値

1　良好に残る城郭全体の基本的形状と各遺構

本丸跡、二の丸跡、東丸（三の丸）跡などの主要な曲輪（平場）や登城路などの、城郭の基本的形状や遺構が良好に残っており、当時の様子がよく見て取れます。また、各遺構では多くの遺物も確認されています。

2　時代の移り変わりを示す城郭構造

仙台城跡は、徳川政権確立へ向かう政治情勢の過程が反映された、戦国期の『山城的性格』と近世期の『平城的性格』を併せ持つ城郭構造に特徴があります。

3　本丸北壁石垣の変遷と城内の石垣にみる変化

本丸北壁石垣の発掘調査により、3時期にわたる石垣の変遷と近世期の石垣修復履歴が明らかになりました。また、城内各所に残る石垣にも、石材の加工方法や積み方に違いが見られるなど、仙台城の歴史を知る手がかりとなっています。

4　政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物

伊達政宗は、伝統を重んじつつ新しい要素を組み入れることにより特色のある文化を築きました。これまでの発掘調査でも大広間を含めた御殿群や、ヨーロッパ産ガラス器や金箔瓦など政宗らしさをうかがわせる特徴的な遺構・遺物を確認しています。

5　杜の都仙台の象徴

青葉山に抱かれた仙台城跡は、「仙台」発祥の地として、地域と共に歴史を刻んできました。本丸跡からの眺望は来訪者に緑豊かな景観を印象付け、「杜の都」の呼称の普及に大きく貢献しました。



明治初期の二の丸跡
（仙台市博物館所蔵に追記）


本丸北壁石垣


出土遺物（ヨーロッパ産ガラス器）

基本的な考え方　仙台城跡の目指す姿を示した「コンセプト」と整備にあたっての「基本理念」、「基本方針」

コンセプト

「仙台」発祥の地　仙台城跡を
より城郭らしく　地域の誇りと愛着を育む場へ
～新たな杜の都にふさわしい歴史的眺望“政宗ビュー”の実現～

「仙台」発祥の地である仙台城跡は、かつて政宗をはじめとする歴代藩主が城下を見渡した場所として、いまも『杜の都』仙台を見守り続けています。こうした歴史的背景を踏まえた本丸跡からの眺望と、自然環境と調和した城郭らしさを持つ市街地からの景観を“政宗ビュー”と象徴的に表現し、それらを史跡整備により実現することで、仙台城跡がより一層地域の誇りと愛着を育む場になることを目指します。

基本理念

- 仙台の象徴として守り伝える歴史・文化的遺産
- 安全・快適に史跡に親しみ学べる地域の城
- 仙台のまちづくりと地域の活性化へつなぐ観光資源

基本方針

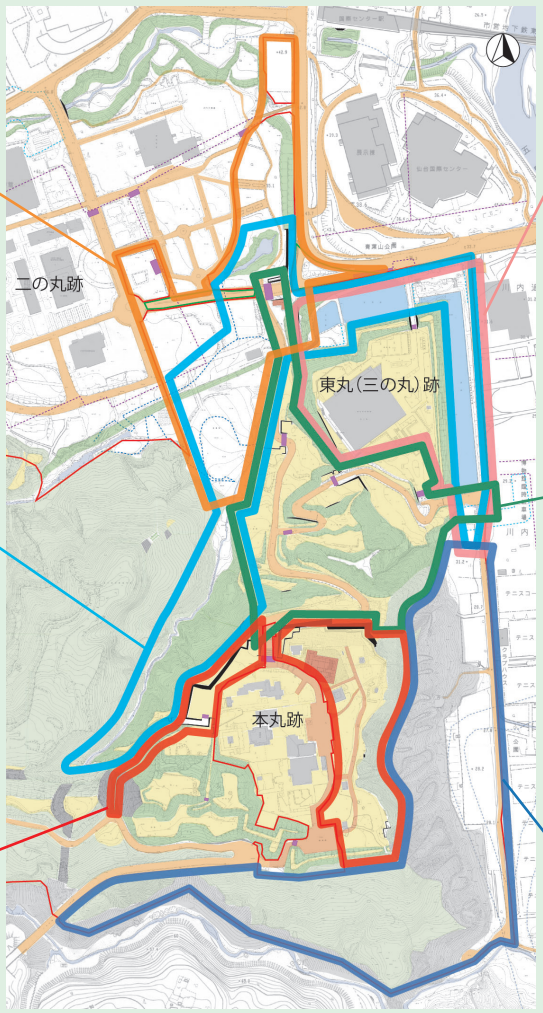
（1）継続的な調査研究と維持管理による、遺構・遺物の保存と次世代への継承
（2）城郭らしい景観の顕在化および眺望の確保
（3）安全・安心・快適な城内環境の実現
（4）来訪者の回遊性向上
（5）様々な来訪者への適切な対応
（6）史跡情報の積極的公開･活用･広報
（7）市民協働･地域との連携推進

整備ゾーンおよび整備等の対応方針　6つの整備ゾーンの概要と令和20年度までの整備方針

大手門整備ゾーン
大手門を中心とした、二の丸や扇坂、中島池を含む一体的な歴史的景観と、藩政の中枢としての二の丸について理解を深めるゾーンです。
主に各種調査に基づく歴史的建造物の再現と遺構の整備を目指します。

水系整備ゾーン
水辺を散策しながら、自然環境を利用した城郭の水利システムについて理解を深めるゾーンです。
主に水系の維持管理を目的とした整備を目指します。

本丸整備ゾーン
本丸跡と、本丸跡から望める経ヶ峯伊達家墓所等の周辺歴史資産との関りについて理解を深めるゾーンです。
主に本丸跡の遺構表示等の整備と、眺望に関する整備を目指します。



東丸（三の丸）整備ゾーン
堀や土塁といった城郭における外構の形状や規模と、その防御性について理解を深めるゾーンです。
主に各種調査成果に基づく堀や土塁の顕在化、歴史的建造物の再現や遺構の整備を目指します。

登城路整備ゾーン
登城路を中心とした、城郭の構造と景観について理解を深めるゾーンです。
主に往時の路面や形状等の構造を理解できる整備を目指します。

崖地整備ゾーン
自然地形を利用した山城的性格を持つ城郭としての景観の理解を深めるゾーンです。
遺構保存と景観保全の観点から本丸跡周辺の崖地保全を目指します。

前期事業計画期間（令和３～８年度）での主な事業内容

前期事業計画期間では、本丸跡から市街地方面への眺望及び市街地方面から見た城郭らしい景観の確保に向けた植生修景を推進したほか、大手門周辺の発掘調査では礎石跡の発見など、今後の整備に必要となる重要な成果が得られました。一方で、令和3年2月及び令和4年3月に発生した福島県沖地震による石垣崩落等の被害に伴い、災害復旧事業を優先して実施したことから、一部の事業は実施時期の変更または未着手となりました。

福島県沖地震による本丸北西石垣の崩落状況と災害復旧



被災後の様子



復旧後の様子

後期事業計画期間（令和９～20年度）の主な事業内容

調査・修景整備・史跡整備を３本の柱として整備事業を行い、あわせて活用事業も進めていきます。

調査　整備に向けた各種調査

史跡整備を進めるため、大手門周辺や巽門登城路、中曲輪などの発掘調査を継続的に実施します。あわせて、石垣の測量調査や動態観測、植生・生態系調査を行い、遺構の保存と活用に必要な基礎データを蓄積します。調査成果は整備内容へ反映するとともに、見学会などを通じて公開します。



発掘調査の様子



石垣測量の様子

修景整備　眺望の確保　城郭らしい姿の実現

本計画でいう修景とは、整備を通じて城郭らしい姿に整えることを言います。現在、市街地方面から仙台城跡を眺めると、城跡の大部分は植生に覆われ、曲輪や石垣などの遺構は一部しか見ることができません。また、本丸跡から市街地への眺望も一部植生により遮られています。植生調査や植生修景方針に基づき、植栽の伐採・剪定・保全を行い、歴史的景観と青葉山の自然環境が調和した眺望「政宗ビュー」の実現を目指します。

本丸跡からの眺望確保



植生修景前



植生修景後

整備事業

史跡整備　大手門の復元と周辺整備

伊達政宗没後400年となる令和18年までの大手門復元を目指します。あわせて、正面虎口周辺や大手門南西エリア、大手門登城路の整備のほか、大手門脇櫓の活用を進め、歴史的景観の再現により、仙台城跡の本質的価値の理解促進と回遊性の向上を図ります。

この他にも、巽櫓跡周辺や本丸北西部の整備を進め、来訪者が仙台城跡の歴史や眺望をより深く体感できる環境を整えます。



大手門復元整備イメージ図

活用事業　魅力発信　誇りと愛着の醸成

発掘調査の成果や整備の進捗状況を積極的に公開し、見学会やイベント、出前講座などを通じて仙台城跡や整備事業への理解を深めます。また、市民や関係団体などの多様な主体と連携・協働しながら、調査や石垣清掃などの史跡保全活動に取り組みます。学校教育や地域活動との連携を進めることで、次世代への継承と地域の誇りや愛着の醸成を図ります。

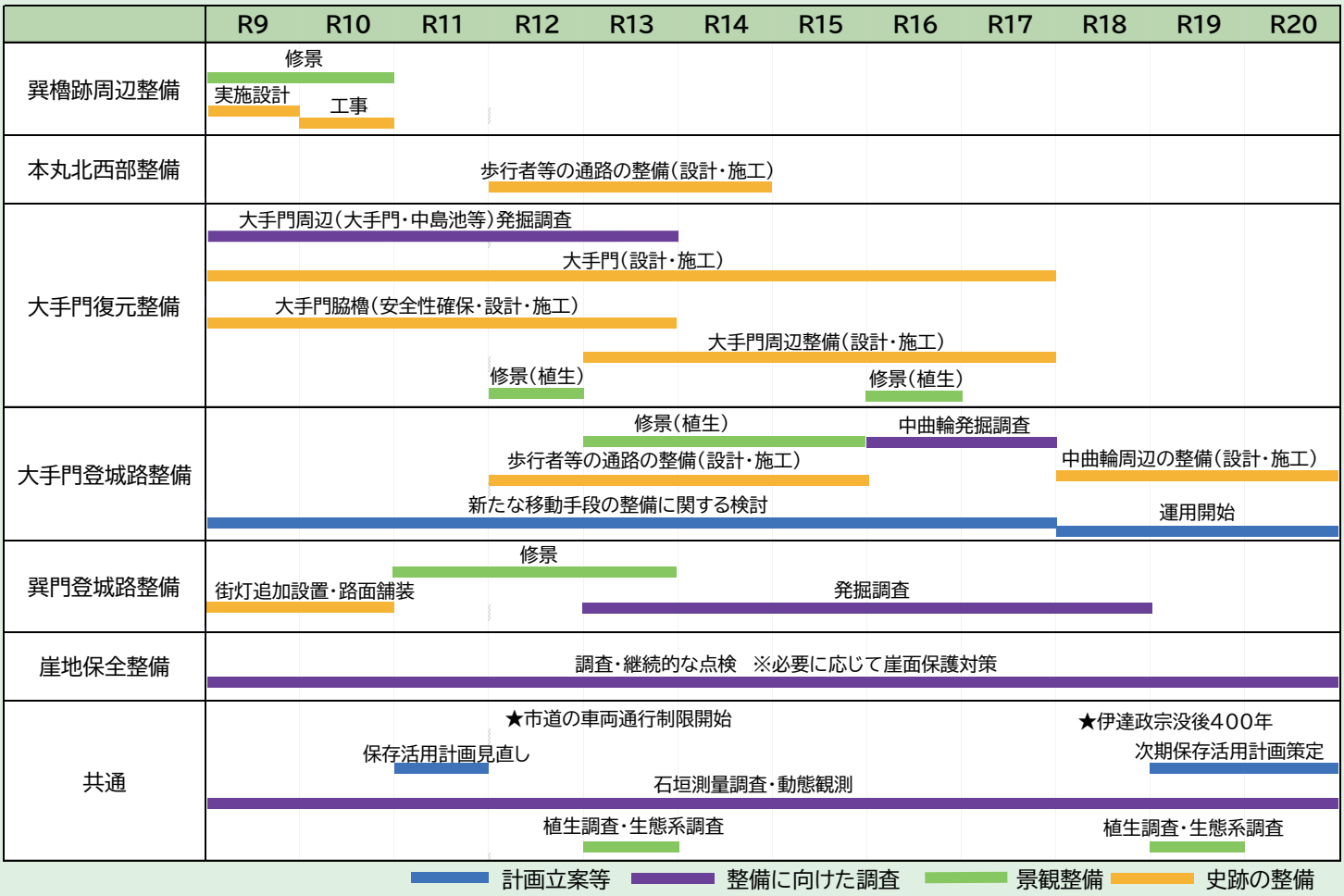


遺跡見学会の様子



親子向け体験型イベントの様子

事業スケジュール　今後12年間で実施する調査・整備のスケジュール



※整備内容・スケジュールは予定であり、今後、変更する場合があります。



仙台城跡航空写真（令和6年度撮影）

史跡仙台城跡整備基本計画（改定中間案）概要版

【編集】仙台市教育委員会　生涯学習部　文化財課　仙台城史跡整備室
〒980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉1丁目5番12号　上杉分庁舎
TEL　022-214-8544／FAX　022-214-8399

発行　令和８年11月